



TITLE:

Lobatolampea tetragona (クシクラゲ類)は南日本に広く分布する

AUTHOR(S):

久保田, 信; 山田, 守彦; 築地新, 光子; 峯水, 亮; 多留, 聖典; 奥田, 和美

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. Lobatolampea tetragona (クシクラゲ類)は南日本に広く分布する. Kuroshio Biosphere 2013, 9: 35-39

ISSUE DATE:

2013-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179231>

RIGHT:

© 2013 黒潮生物研究財団

Lobatolampea tetragona (クシクラゲ類) は南日本に広く分布する
**LOBATOLAMPEA TETRAGONA (CTENOPHORA) WIDELY DISTRIBUTED
IN SOUTHERN JAPAN**

By

久保田 信¹・山田守彦²・築地新光子²・峯水 亮³・多留聖典⁴・奥田和美⁵
**Shin KUBOTA¹, Morihiko YAMADA², Mitsuko CHIKUCHISHIN²,
Ryo MINEMIZU³, Masanori TARU⁴ and Kazumi OKUDA⁵**

概要

Abstract

Lobatolampea tetragona Horita, 2000 (Ctenophora) was found recently in various localities in Japan after previous record made in 2008, extending both northwards (Odaiba, Tokyo Bay) and southwards (Ishigaki Island, Okinawa Prefecture). All these observation records of this species, particularly of the largest individual in each locality, up to ca 50 mm in width, is summarized. Geographic distribution is mapped for this endemic species.

はじめに

Introduction

Lobatolampea tetragona Horita, 2000 は体が扁圧されたクシクラゲの一種で、口側の拡張部で基質上に座着していることが多い (Sasaki *et al.* 2001)。*Lobatolampea tetragona* は刺激を受けると基質を離れ、櫛板や筋肉運動で浮遊・遊泳でき、クシヒラムシ類のような完全に底生動物的な体制に進化していない。しかし、本種には櫛板は多数みられるが、耳状突起や袖状突起は成体になっても体が大きくないためかいつさい形成されない。本

1. 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University,
459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp
2. 〒892-0814 鹿児島県鹿児島市本港新町 3 番地 1 かごしま水族館
Kagoshima City Aquarium, 3-1 Honkoushinmachi, Kagoshima 892-0814, Japan
3. 〒411-0906 静岡県駿東郡清水町八幡 224-1-101 峯水写真事務所
Ryo Minemizu Photo Office, 224-1-101 Yahata, Shimizu, Sunto, Shizuoka 411-0906, Japan
4. 〒274-8510 船橋市三山 2-2-1 東邦大学東京湾生態系研究センター
Tokyobay Ecosystem Reserch Center, Toho University, 2-2-1 Miyama, Funabashi, Chiba 274-8510, Japan
5. 〒907-0024 沖縄県石垣市新川 2452-1-1-B 石垣潜水堂
Ishigakisensuido, 2452-1-1-B Arakawa, Isigaki, Okinawa 907-0024, Japan

種は生態や系統的位置がまだよく解明されていない稀少種で、これまでわが国の三重県と沖縄島および瀬戸内海から最大径 47.0 mm の成熟個体が記録されているだけであった (Horita 2000; Sasaki *et al.* 2001; 久保田・堀田 2009)。ちなみに沖縄島泊港では 2008 年 4 月下旬に 1 日の様々な時間帯に 1 回ごとに 10-20 回、計 40-80 回/日の垂直曳き (水深 7 m) を実施し、最長で約 0.5 km/日ネットびきをした。この連続 5 日間で計 290 回のネット曳き (約 2 km) で得られたのは、たった 9 個体であった (久保田・堀田 2009)。

今回、2011 年 5 月から 2013 年 2 月にかけて、日本各地で共著者たちにより本種の生体写真が現場で撮影されると同時に生態情報が得られた。これらの遭遇・発見により本種の日本での分布範囲が南北に広がるとともに、この分布範囲を埋める複数の海域での新しい記録もなされたので、これら全てをまとめて報告する。

記録

Records

Lobatolampea tetragona の各地の最大個体について、これまでの知見と今回の新たな観察をあわせた日本全記録を表 1 にまとめた (図 1, 2)。その結果、全部で 60 個体ほどが発見されており (特に沖縄島で多産、名護では全体の半数が記録)、本種の最大径は 5 cm ほどであった (表 1)。どの海域でも本種は成熟している。一方、最小の成体は、以前に報告したように、沖縄島産の最大長径が 6.5 mm の個体である (久保田・堀田 2009)。

本種はとても幅広い水温耐性がある種で (10.5-23.4℃で記録: 表 1)、四季を通じて (1 月から 12 月まで各地に出現: 表 1) 分布でき、出現する水深も 1-38 m を記録した (表 1)。とりわけ、分布の北限と南限地では複数個体が (東京湾では同じ時期に年を違えて繰り返し) 目撃されているので、ともにそこでは個体群がある程度定着しており、どこかから成体が流されてきたのではなかろうと推察される。最新の観察により日本の厳冬期にあたる 1 月末に東京と石垣島で同時に発見されたのは注目される。繰り返すが、沖縄島では複数の地点に生息しており、特に名護で今回の全体の半数 (30 個体) が観察されており、今後の生態観察のポイントとなろう。

本種は今後も南日本各地からは発見されるであろうが (クラゲの種類が日本一多く報告されている和歌山県田辺湾ではその機会がないままであるが: 久保田 2003 など) 日本海沿岸に面した海域や北日本でも出現するのか調査が求められる (図 3)。

表 1. 日本各地の *Lobatolampea tetragona* 最大個体のサイズおよび採集データ

Table 1. Size and collection records of *Lobatolampea tetragona* in Japanese waters.

地点	日/月/年	個体数	水深 (m)	水温 (℃)	最大 長径 (mm)	生殖巣の 発達	発見/撮影者/文献
Locality	day/month/year	No. of individuals	Depth	Water temperature	Max. width	Developmen t of gonads	Observer/photographer/ references
お台場, 東京都	30/XII/2012	3	3-4	12.5	ca35	有	多留聖典
	27/I/2013	2	3-4	10.5	36.1	有	多留聖典
鳥羽, 三重県	3/V/1992	2	1	15.3	23.1	有	Horita 2000
伊保田, 山口県	3/V/1998	1	1	16.8	39.7	有	Sasaki <i>et al.</i> 2001
	11/V/2000	1	1	12.9	38.8	有	Sasaki <i>et al.</i> 2001
鹿児島湾, 鹿児島県	9-10/V/2011	1	20	15	ca40	有	山田守彦
名護, 沖縄県	27/VI/2011	30	25	-	ca50	有	峯水 亮
宜野湾, 沖縄県	25/V/2000	2	1	23.4	47.0	有	Sasaki <i>et al.</i> 2001
泊港, 沖縄県	22-26/IV/2008	9	1-7	-	6.5	有	久保田・堀田 2009
石垣島, 沖縄県	30-31/I-2/II/2013	4	38	22	ca20	有	奥田和美

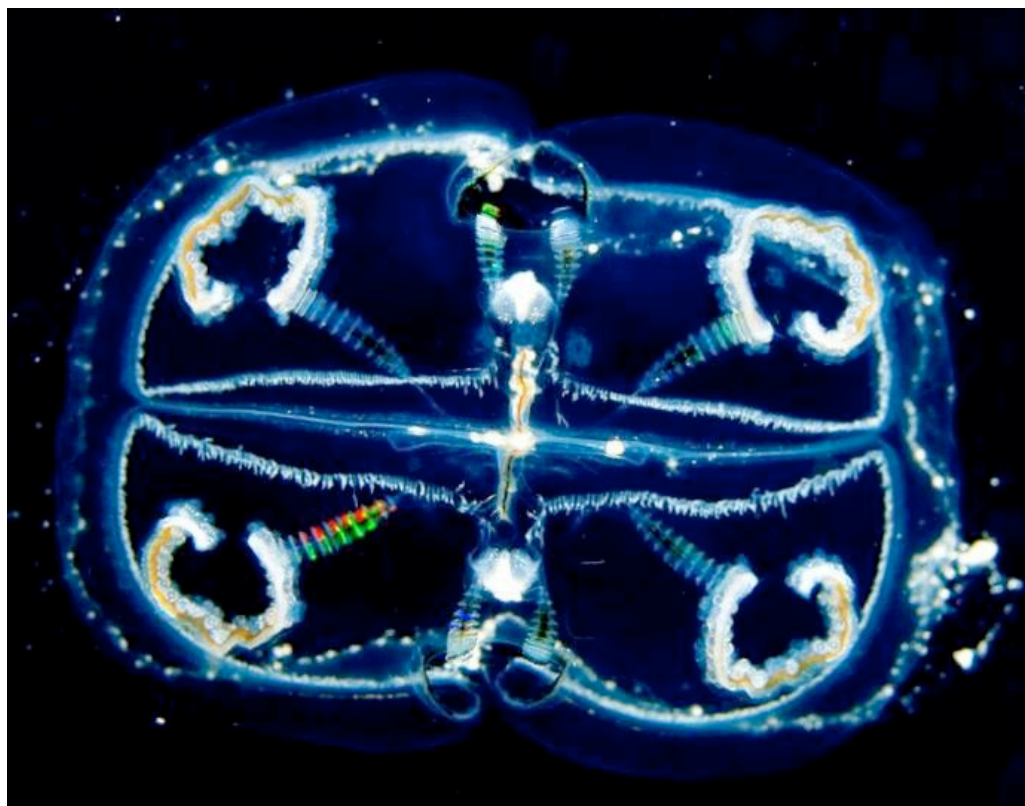


図 1. 沖縄県石垣島産 *Lobatolampea tetragona* (奥田により 2013 年 1 月 30 日現場撮影)

Figure 1. *Lobatolampea tetragona* Ishigaki Island, Okinawa Prefecture, Japan (photographed *in situ* on January 30, 2013 by Okuda).



図 2. 東京都お台場産 *Lobatolampea tetragona* (多留により 2013 年 1 月 27 日現場撮影)

Figure 2. *Lobatolampea tetragona* from Odaiba, Tokyo, Japan (photographed *in situ* on January 27, 2013 by Taru).



図 3. *Lobatolampea tetragona* の地理的分布 (●: 既知の記録; ■: 今回の発見場所) .

Figure 3. Geographical distribution of *Lobatolampea tetragona* (●: previous record; ■: present new record)

引用文献

References

- 久保田信, 2003. 和歌山県田辺湾およびその周辺海域から記録された有クラゲ類及び有櫛動物の目録—生活史上でのポリプとクラゲの結合. 瀬戸臨海実験所年報, 16: 30-35.
- 久保田信・堀田拓史, 2009. 稀少なクシクラゲの一種の小型成体および未成熟個体の形態. *Kuroshio Biosphere*, 5: 17-21+1Pl.
- Horita, T. 2000. An undescribed lobate ctenophore, *Lobatolampea tetragona* gen. nov. & spec. nov., representing a new family, from Japan. *Zoologische Mededelingen*, 73(30): 457-464.
- Sasaki, K., S. Ueno, S. Iwanaga, N. Oshiro and S. Kubota. 2001. Some biological notes on *Lobatolampea tetragona* (Ctenophora: Lobatolampeidae) in Japan. *Plankton Biology & Ecology*, 48 (2): 136-137.